

## 建築学会中国支部と広島青年部会

### 「パス間温度」について学ぶ

#### 合同勉強会に約80人が参加

日本建築学会中国支部・工業専務)は5日、広島市鉄骨製作部会(主査〓清水 中区のRCC文化センター 齊・広島工業大学教授)と で合同事業を開催し、田渕 広島県鉄構工業会・青年部 基嗣・神戸大学名葉教授を 会(会長〓遠藤健太・遠藤 講師に招いて「今一度、溶



「パス間温度」テーマに勉強会を開催

接入熱のパス間温度を考  
「この積層に従えば400  
設計・施工関係者や中国地  
認定制度の評価員を含む約  
80人が参加した。

冒頭、清水主査は「ここ  
2年間はコロナ禍により対  
面事業ができなかったが、  
今日は学んだことを今後の

業務に役立ててほしい」と  
あいさつした。

勉強会で田渕教授は神戸  
大学での入熱・パス間温度  
に関する研究の概要を分か  
りやすく説明するとともに、

兵庫県鉄工建設業協同組合  
が神戸大学鋼構造研究室の  
指導により2002年に作  
成した「入熱30KJ/cmの標  
準積層」を詳しく説明し、

「この積層に従えば400  
N級梁でフランジの板厚25  
mm以下ならパス間温度は4  
50度を越えない場合が多  
くなり、いくつかの梁断面  
についてのデータを取って  
おけば、溶接施工管理の合  
理化が可能になる」とした。  
また、兵庫県のMグレー

ドファブ、和以貴建設(西  
脇市、来住周亮社長)で9  
月に行われた溶接施工試験  
の結果を示し、この方法が  
有効であることを説明した。

最後に松尾彰・広島大学  
名誉教授が「今日の勉強会  
で学んだことを各社で広め  
てレベルアップにつなげて  
ほしい」と総括した。